

〔感染症発生動向調査企画委員会情報〕

10月報

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 10月の報告数は120件（前月比2.3、前年同月比2.7）でした。7月の最低値以降増加傾向が続いています。まだ低い水準ではありますが、今後は例年通りに増加するものと推測され注意が必要です。水俣、宇城地区からの報告が多くなっています。

小児科定点

（全体傾向）

報告数2,614件（前月比0.86、前年同月比0.83）でした。感染性胃腸炎1,130件が大きく占めています。インフルエンザと感染性胃腸炎の増加傾向は続いています。ヘルパンギーナとRSウイルス感染症は前月よりも半減したため、全体の報告数は減少しました。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告数322件（前月比0.5、前年同月比0.4）でした。9月をピークとして10月は減少に転じ、半減しました。0歳から2歳までの報告が多くを占めています。人吉地区からの報告が特に多いようです。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数60件（前月比1.1、前年同月比0.5）でした。7月からの低水準が続いています。宇城、八代地区から比較的多く報告されました。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数273件（前月比1.2、前年同月比1.6）でした。5、6月にピークを迎えた後7月からは大きな変化がなく、例年並みに推移しているようです。前月同様4、5歳をピークに幅広い年齢層から報告があります。宇城、菊池地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,130件（前月比1.1、前年同月比1.2）でした。8月の最少報告以降はじわりじわりと増加傾向が続いています。例年、年末年始に向けて件数が増えていますので注意が必要です。山鹿、菊池地区からの報告が目立ちます。
5. 水痘 : 報告数27件（前月比1.0、前年同月比0.5）でした。6月からは昨年約半数で推移していて大きな変動はありません。菊池地区からの報告が若干目立ちます。
6. 手足口病 : 報告数147件（前月比0.6、前年同月比0.4）でした。6、7月のピーク以降は連続して減少しています。年齢別では1歳の報告が最多でした。前月に引き続き八代地区からの報告が多いようです。
7. 伝染性紅斑 : 報告数2件（前月比0.7、前年同月比0.5）で、昨年度始めからの低い水準が続いています。今月は熊本地区から、4歳児の報告のみでした。
8. 突発性発疹 : 報告数120件（前月比1.1、前年同月比1.1）でした。前月比、前年比とも大きな変化はなく推移しています。
9. ヘルパンギーナ : 報告数174件（前月比0.4、前年同月比1.1）でした。8月のピーク以降は連続して減少しています。前月同様、菊池地区からの報告が多いようです。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数22件（前月比1.7、前年同月比0.3）で、今年は過去2年間に比べて報告数の少ない状況が続いています。山鹿地区からの報告が多いようです。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告数1件(前月比0.5、前年同月0)です。熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎： 報告数85件(前月比0.8、前年同月1.6)と前月よりも減少しています。熊本50件、菊池6件、有明27件、天草2件の報告です。年齢別では、1歳～高齢者まで広い範囲で発症していますが、30～39歳にピークがあります。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症：
報告数54件(前月比1.1、前年比1.1)で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性30件、女性24件で、男性に多く見られます。年齢別は、男性は15～70歳以上で幅広い年齢に多く見られ、女性は15～49歳に見られます。地域別は、熊本が41件、次いで菊池、御船、八代、有明各3件、宇城1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数28件(前月比1.6、前年比1.6)で前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性18件、女性10件で、男性に多くみられます。年齢別は、男性は20～70歳以上で幅広い年齢に多く見られ、女性は15～70歳以上で幅広い年齢に多く見られます。地域別は、熊本23件、次いで八代3件、菊池、宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ：
報告数5件(前月比0.4、前年比0.7)で、前月比、前年比ともに減少しています。男女別は、男性2件、女性3件で、女性に多くみられます。年齢別は、男性は35～49歳に見られ、女性は15～34歳に見られます。地域別は熊本3件、次いで御船、八代各1件でした。
4. 淋菌感染症：
報告数14件(前月比1.4、前年比0.7)で、前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性12件、女性2件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は20～69歳に見られ、女性は20～24歳に見られます。地域別は、全例が熊本でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：
報告数は19件(前月比：1.4、前年同月比：1.2、男女比：12/7)で増加傾向にあります。熊本地区(5)、人吉地区(4)、有明地区(4)、阿蘇地区(3)、山鹿・八代・水俣地区(1)と広範囲に認めます。全地区70歳以上(16)に集中して検出されました。
▼例年並みの報告数まで増加傾向を示しています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：
報告数は5件(前月比：-、前年同月比：2.5、男女比：4/1)で増加傾向にあります。有明地区(3)、熊本・山鹿地区(1)でした。1-4歳(2)、70歳以上(3)と両極端の分布でした。
▼例年に比べ早めにかつ急峻な増加傾向に転じています。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：
報告数は0件(前月比：-、前年同月比：-、男女比：-/-)で報告はありませんでした。
▼引き続きH30年4月(1)以降、報告はありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。
▼昨年並みに少ない報告数で横向きに推移しています。
2. 無菌性髄膜炎： 報告数は1件（前月比：1.0、前年同月比：0.5）で横向きに推移しています。熊本地区(1)で25-29歳(1)でした。
▼昨年より少ない報告数で横向きに推移しています。
3. マイコプラズマ肺炎： 報告数は4件（前月比：2.0、前年同月比：0.8）で横向きに推移しています。熊本地区(3)、八代地区(1)で1-4歳(2)、5-9歳(1)、70歳以上(1)でした。
▼昨年並みに少ない報告数で横向きに推移しています。
4. クラミジア肺炎： 報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。
▼H28年の発生以後、報告はありません。
5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：
報告数は1件（前月比：-、前年同月比：-）で少数横向きに推移しています。熊本地区(1)で1-4歳(1)でした。
▼例年並みの推移で12月までは報告数も少ないと推測されますが、1月、2月以降の増加に留意が必要です。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	26件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	3件
4類感染症	： 重症熱性血小板減少症候群	1件
	日本紅斑熱	2件
	レジオネラ症	6件
5類感染症	： アメーバ赤痢	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4件
	後天性免疫不全症候群	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
	梅毒	17件
	播種性クリプトコックス症	1件
	破傷風	1件
	百日咳	3件
	風しん	2件
	麻疹	1件